

御幸 藤ばかり 榎柱 梅が枝 藤のうらは わかな わか菜 かしほ木 よこ笛



すゝ虫 夕霧 みのり まぼろし にはふ宮 紅梅 竹河 ばし姫 椎がもと



あげまき さわらび やどり木 あづまや 浮舟 かげろふ 手ならひ



〔五十組聞書上〕初音香

香四種 春として四包内一包試、霞として三包試なし、花として右同断、鶯として一包同断、

右春の香試終、春一包、霞一包、此二包交て聞當れば初霞と書、其次春一包、霞一包、花一包、三包交聞、三種とも當れば初花と書、一種當れば其香の一字を書、其次又春一包、霞一包、花二包に鶯一包か、五包打交、炷皆聞當れば、聞の下に初音と書、其下ニ點數書なり、一種二種は初音をか、す、一字を書、此香始二種開き、二番三種開、三番五種開なり、本香を先に書、不當ば不書、又記紙にて後開きにもするなり、春霞一結び、春霞花一結、春霞鶯に花二包都合五包一結。

此春霞花之内一包除、鶯を入聞もあり、  
〔香道千代の秋上〕古來より有來組香目錄